飲酒はハタチになってから/沖神

琴椿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
飲酒はハタチになってから／沖神

【Ｎコード】
Ｎ０２９４Ｊ

【作者名】
琴椿

【あらすじ】
食事に困った神楽と銀さん。
…そうだ、真選組行こう！！！
…でもって神楽が酔っぱらっちゃって！？

どこをどう間違ったら二十歳をハタチと読むのか（前書き）

グダグダ小説家の琴、新作発表！！

どこをどう間違ったら二十歳をハタチと読むのか

「嘘だろ…」
空っぽの冷蔵庫の中をのぞきながら銀時がつぶやいた。

ぐぅぅぅぅぅぅ…。
「…銀ちゃん腹減ったアル！！なんかないのォ！？」
「あったんだよ！でも今それはオメーの腹ン中だろ！！」
「チッ、ちゃんと働けよ天パァ」
「てんめッ…」
ぐぅぅぅぅぅぅ…。

もう怒鳴る気力もない。
「…誰か助けてェ！！」
「…お！？銀ちゃん、いいこと思いついたアル！！」

…ニタリ。
薄く笑うところを見ると、彼も同じことを考えていたようだ。

「「税金泥棒！！」」

★　★　★

「…なんだァ？とうとうなんかやらかしたか？」
真選組屯所。瞳孔が完全に開いた男と、甘いマスクの男が立っていた。

「おたくらもねェ、その日を生きるのにも苦労してる俺たちから税金無理やり巻き上げるなんて、頭ど　うかしてんじゃないですかァ？？」

「…ムカつく野郎だなお前は！！何企んでやがる！？」
「…せよ」
「あァ？？」
「飯出せェェェ！！！！！！」
「はァァァァ！！？？」
男…土方は額に青筋をうかべながら怒鳴った。
…あまりにバカバカしことだったからだ。

「ここはレストランじゃねーんだよ！！それに俺らも暇じゃねーの！！」

「…そういえばァ…。」
「？？」
「まだ伊東ん時の報酬もらってねーなーって。」
「……。」
「土方さん、こいつらに飯出すんですかィ？？うちの飯なくなっちまいますぜ？特にこの女はバケモンだからねェ。」
「バケモンでもなんでもいいから飯出せサド野郎！！うがァァ！！！腹減ったァ！！」
サド野郎と称された男、沖田はド級のSなのである。

「…はァ。飯食ったらとっとと出てけ。」
「マジ！？ありがとうトッシー！！マヨ中になれトッシー！！！！」
「んだとォ！！！！！！？？？？？」

「…んめ～ッ♪こんな美味いの久しぶりアル！！銀ちゃん、コイツらたまには役立つアルナ！！」
「…まーなァ」

「ったくよ。なんなんだオメーら。」
「あーちょっと厠借りるわ」
「マジでなんなんだッ！！！！」
「副長～…」
銀時と土方のケンカがおっ始まろうとしていたとき、土方にお呼ばれがかかった。
「あぁん？？」
パタパタ…。

「旦那ァ、厠ならこっちでさァ」
「お～…」

「あーつまんないの。ん…？？」
ひとり取り残された神楽は、さっきまで銀時が飲んでいたものを手にとった。
「ちょうどいいネ、のどかわいてたアル」

…ゴク。

「…おいチャイナァ、俺の分まで食うな…」
沖田の足先になにかが当たった。
それをひょいと拾い上げる。

「酒ビン…？？」

銀時が出せとうるさいので、客人用の酒をしぶしぶ出してやったのだ。

（まだたくさんあったハズ…。）

…なかは空だった。

（…まさか）

「んん…」

すみっこでねっ転がる神楽。

「オイ、お前これ飲んだか！？」

そのとき、閉じていた目がいきなり開いた。

「うお！？」

うつろな目。頬は熱くほてっている。

「あはははははははぁ♪♪」

…びくッ！！！！

「うぉ～いもっともってこいよォ…」

（コイツ…完全に酔っぱらってる…）

「ん～にゃぁ…」

「オメーはバカかァ…」

「んん～バカじゃな～いも～ん★★」
「バカだろ！！いいから寝てろ！！」
沖田は神楽を寝かそうとした。
…だが神楽はぴくりともしない。
…ドンッ！！！！
「うわッ！？」
沖田は神楽によって押し倒された。
「サ～ド～くぅ～ん…」
「オメーキャラ変わっちまってるぜィ？？」
必死に冷静を装っているフリをしたが、鼓動を抑えることはできなかった。
「にゃぁ～…」
神楽は沖田の身体の上にこてっと横になると、ごろごろとのどを鳴らした。
「猫かコイツ…」
…どーすんだこれ。
旦那に見られたら誤解されるに決まってる…。
「チャイナ…」
「…ＺＺｚ…」
（ちっ、寝てやがる…。）

体調が悪いところを無理やり起こすわけにもいかず…。

「起きるなよ…」

沖田は神楽が起きないように自分の身体から離そうとした。

「…んぐぐッ！！！」

しかし神楽は沖田の服をがっちりとつかんでいるためそう簡単には離れない。

「やべェ…服が破れる」

…ガラ…

「神楽ー！そろそろ帰る…」

戻ってきた銀時の目から光が失われた。（まぁもともと光なんてないのだが。）

「あんだァ？？てめーらまだい…ッ」

仕事を片付け戻ってきた土方もその場に固まる。

…目の前には沖田に抱きついた神楽。

「総一郎君…？？ウチの神楽ちゃんになにしてんの？？」

「誤解でさァ。コイツ、旦那の酒飲んじまったみてーなんですよ」

「…酒ェ？？」

「んなもんひきはがせばいいだろ…」

「あ～ダメダメ多串君。コイツ、前にもこんなことあったけど、起こしたら殺されるよ～」

…どーすっか…。

保護者である銀時にとってこの状況はとんでもなくマズい。
沖田だって男だし、酔っぱらっているとなれば何かあっても不思議ではない。

「ダメダメ！神楽ちゃんは未成年ですッ！！総一郎君、手ェ出したら殺すよ！？」
「総悟です。…旦那ァ、安心してくだせェ。コイツには興味ないんで。」
「嘘つけオメー、顔真っ赤だぞ？？」
「き…気のせいだよ土方コノヤロー！！！！！！殺すぞ！！！！！」
「…ハイハイ。」

どこをどう間違ったら二十歳をハタチと読むのか（後書き）

うん、グダグダ！！

次で終わります。

ビールの良さを、誰か教えて。（前書き）

…未成年なんですがね。

ビールの良さを、誰か教えて。

空にはもう星がまたたきはじめる。
そんななか、神楽は目を覚ました。

「…！！」
万事屋では…ない。
黒い服…。すぐ上を見上げると、整った顔があった。

「んきゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！？？？」

ドタドタ…。

「総一郎君やめてーーーーッ！！！！」
神楽が何かされているのではと勘違いした銀時が半泣きになりながら部屋に飛び込んできた。

「…るせェな、いきなりでかい声出すんじゃねーよ」
「んなななな…／／／」
「神楽ァ！なんかされたかァ！？」
「わ…私なんでコイツと寝てるネッ！！」
「…誤解すんなよ？オメーがいきなり抱きついてきたんだからなァ」
…頭をかかえる神楽に事情を説明するのに１０分ほど。

「…トッシー、銀ちゃん、…サド。いろいろ迷惑かけちゃってゴメ

ン。」
「ったくよ〜…」
「帰るか神楽…。」
沖田と神楽、一瞬目が合った。
（…お??）
とたんに真っ赤になって目をそらす神楽。
…ニタり。
このとき沖田がサディスティックな笑いをしたことに、誰も気づいていなかった。
「…チャイナァ」
「「「…??」」」
一同の足が止まる。
「何アル…むぐッ!!」
…ちゅ。
「「「……ッ!!??」」」

「さっきいろいろされた分の仕返しでさァ」
沖田は舌をべぇっと出すと、屯所に消えていった。
…流れる沈黙。

「そーごォ！！！！！」
「総一郎君…！？ちょっとこっちこいオメーコラァァァァァ！！！！！」
「…銀ちゃん」
「神楽ァ安心しろ！！お前の仇は絶対とってや…」
銀時は口を閉じた。
神楽が恋をする女の子の目になっていたから。
「…お酒もたまにはいいかもしれないネ。」
「…神楽ちゃん、銀サン泣いていい…？？」

お酒はハタチになってから。
恋はいつでもしましょうねッ♪♪

ビールの良さを、誰か教えて。（後書き）

…酒。

飲み過ぎちゅーい。

…ってゆーか長くね??

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0294j/

飲酒はハタチになってから/沖神

2010年10月10日18時30分発行